

1 目的

本校では、『つながり』を意識した実践を学校目標に掲げてきました。『つながり』とは、同級生のつながり、上級生・下級生とのつながり、児童と教職員、保護者や地域とのつながりを深め、さらには学習や行事等をつなぎ、児童個々の内面での成長へつなぐ取組です。それらの『つながり』を継続的に意識させることで、綿々と続く学校の文化・伝統として引き継がれるものと考えています。

2 内容

(1) 児童個々の成長をつなぐ

ア 繰り返し学習

学力定着を図るために、読み・書き・計算は欠かせないもので、全教科の土台となります。週の計画に位置づけた朝学習（火曜：算数 木曜：国語）において、既習事項を確実に積み重ねるよう、児童の実態に合わせ、学年ごとに工夫して反復練習に力を注いでいます。また、各教科において、ICT 機器（タブレット）を活用した学習を取り入れたり、既習内容を活用して発展課題にも取り組んだりできるように、授業展開を工夫して取り組みました。

イ Q-U 研修会

応用教育研究所の杉村秀充先生を招いた研修会では、実際に自分が担任している学級の Q-U シートを分析しました。データの見方や児童一人一人についての理解や対応方法、今後の学級経営の方向性や留意すべきことについて、一つ一つ丁寧にわかりやすく説明していただき、児童理解を深めるために多くのことを学ぶことができました。

ウ 特別支援教育研修会

津島市教育委員会の長谷川修三先生を招いた研修会では、特別支援学級だけでなく通常学級での個別な支援を必要とする場合の対応について、学校と児童を取り巻く課題を交えながら具体的に説明していただき、児童理解につなげ、指導力の向上に生かすことができました。

(2) 心や命をつなぐ

ア 人権教育

文字職人の杉浦誠司さんを講師に迎えて人権講演会を実施しました。幼少期にいじめに遭い、辛い日々を過ごし、それを乗り越えてきた体験をもとに、子どもたちに、「人にはいろいろな『力』がある。その中で『財力』や『学力』も大切かもしれないが、人としては『人間力』『魅力』が一番大切。君たちには限りない可能性がある。決して自分で自分の可能性をうばってはいけない」と、夢をもつことの素晴らしさ、皆とつながれば夢は必ず叶うなどの熱い思いを高学年の児童へ語っていただきました。



杉浦誠司さんから「夢めっせ一字」

最後に、児童に囲まれ「めっせ一字」を書いていただきました。児童顔を一人一人見つめながら何を書こうかじっくりと考えられ、書きはじめられたら一気に流れるような筆さばきで、メッセージを書いてくださり、児童の心に思いが強く伝わる時間となりました。

<杉浦さんからの『夢めっせ一字』>

—光— 誰かを喜ばせたい時 自分の命が光り 可能性が広がる
みんなの未来は 希望しかないから 楽しんで

イ キャリア教育（職業講話）

12月、6年生を対象に地域の伝統産業を含むさまざまな仕事に従事している方を講師として6名お招きし、働くことのやりがいや楽しさ、誇り、苦勞、喜び、大切にしていることなどについて講話をしていただきました。児童は、自分の興味・関心のある職業を3つ選び、その講話を一語一語聞き漏らさないようにメモを取りながら、熱心に聞き入って、とても有意義な時間を過ごすことができました。この経験を通して児童の職業選択の幅が広がり、今の自分を見つめ直し、生き方について深く考える事ができるとてもよい機会となりました。



キャリア教育 「働く」を学ぶ

ウ 水泳指導

スイミングスクールより講師を招き、プロの水泳指導を学びました。児童の泳力向上・教員の指導力向上に生かすことができました。また、水泳学習における安全指導の必要性を重視し、着衣泳をはじめとする安全に配慮した指導方法について学ぶ貴重な機会とすることができました。

3 評価

今年度も、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の影響を受けながらも、教職員内で知恵を出し合い、できることを模索しながら、工夫して教育活動を進めてきました。

学習面においては、ICT機器を活用し、学び合いを充実させるようにしました。そうすることで、それぞれが学んだことや感じ取ったことをタブレット端末で交流でき、自らの考えをさらに深めることができました。また、学びの変容を記録することに努め、個々の成長を確認することができました。これらの取組を通して、児童一人一人の成長へとつなげていくことができました。

心や命をつなぐ取組について、特別支援教育の研修やQ-Uの結果を受け二者懇談（教師と児童）を実施して児童理解に努めることで、児童一人一人の困り感や交友関係の悩みを早期発見することができ、早期に対応することができました。また、地域人材を活用したキャリア教育（職業講話）や人権講演会の実施により、児童の心の成長だけでなく、それを支える教師の指導力を高めることにもつながりました。

4 課題

次年度も、安全で安心できる学校づくりを目指す中で、児童一人一人が多くの学びができるよう、教職員、保護者、そして地域と連携・協働しながら、児童の実態に寄り添った教育活動を模索していきたいと考えます。